

1. 地震と火山災害が多い日本

資料Ⅰ 2016年の熊本地震



資料Ⅱ 2011年の東北地方太平洋沖地震



資料Ⅲ 2017年の霧島山の噴火

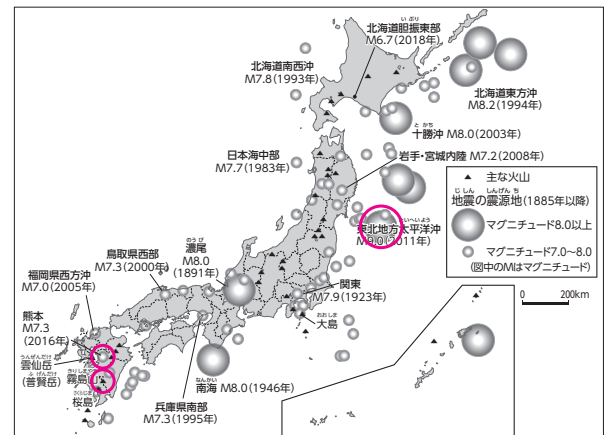


- (1) 資料Ⅰ・Ⅱの地震の震源地と資料Ⅲの火山の場所を資料Ⅳで確認し、赤丸で示してみよう。

- (2) 資料Ⅰから資料Ⅲを参考にして、日本の自然災害の特色を説明してみよう。

(例) 日本列島は環太平洋造山帯に位置しているため、地震が多く火山活動も活発である。また地震によって発生する津波の被害も大きい。

資料Ⅳ 主な火山と地震の震源地

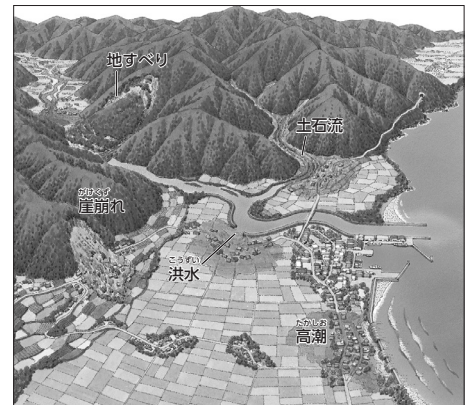


2. さまざまな気象災害

- (1) 資料Ⅴから気象災害を二つ選び、その災害の特徴を説明してみよう。

自然災害	特 徴
(例) 洪水	(例) 台風や大雨などにより川が増水し、水があふれたり、堤防が決壊したりする。
(例) 崖崩れ	(例) 豪雨などにより、斜面の地盤が緩んで崩れる。

資料Ⅴ さまざまな気象災害



- (2) 日本では気象と関係する自然災害が多い理由を説明してみよう。

(例) 夏から秋にかけては台風や梅雨による雨が多く、冬には大雪になる地域も多いなど、日本の気候は地域や季節によって異なるため。

本時のまとめ

◆ 身近な地域で発生する可能性がある自然災害について、地形や気候の特徴を踏まえて説明しよう。

(例) 関東地方では、台風が上陸することもあり、強風や高潮、洪水による被害が生じている。
また、たびたび地震による被害を受けることもあり、伊豆諸島では火山による自然災害も起きている。